

昆虫の子育て

産みっぱなしの無責任な親や、食物を選んで産卵する (p46) だけでなく、立派に子育てをする昆虫もいる。ここではそのようすをとりあげてみよう。

●子守をしながら育てる

卵や幼虫を体でかばい外敵から守る昆虫がいる。餌を与えることはしないが、立派な子育てだ。



エサキモンキツノカメシ雌成虫と卵
葉裏に卵を産み、雌成虫がその上に静止して守る。幼虫がふ化した後もしばらくはこうした保護行動を続ける。(p104)



キアシハサミムシ
卵をなめたり動かしたりして、カビやダニから守る。(p98)

●集団で子育てする

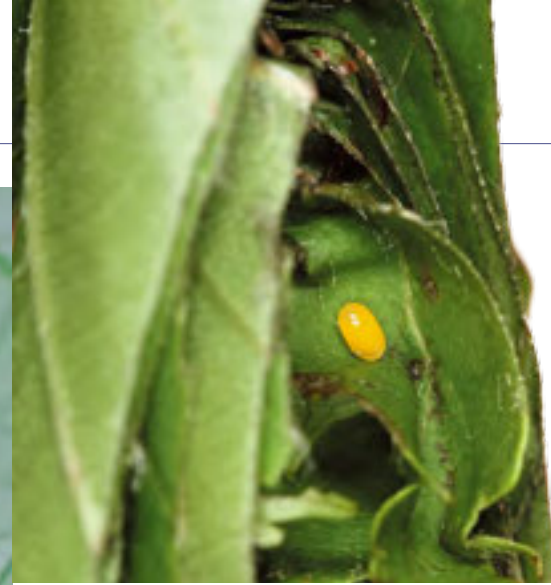
ミツバチやアリ、シロアリなどの社会性昆虫では集団で巣を作り、餌を与えながら子育てをする。集団内では女王をはじめ役割分担がある。



肉団子をつくるキアシナガバチ
働き蜂は肉団子状にした餌を巣に持ち帰って幼虫に与える。写真の獲物はゴマダラチョウの幼虫。

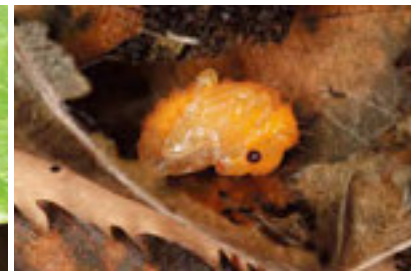


ヤマトアシナガバチ
写真では上から卵、幼虫、蛹(マユ)の層が見える。集団で生活し、働き蜂が巣を作り幼虫の世話をする。右端は肉団子を持ち帰った働き蜂。幼虫は通常は働き蜂となり、みな一頭の女王から生まれた姉妹だ。秋に生まれる女王(交尾雌)が越冬、春に新しい巣をつくる。アシナガバチやスズメバチの仲間はこうして子育てをする。(p160)



●子供に巣と餌を用意する

生まれてくる幼虫のために、食草で巣を作ったり、餌を巣に運び込んでおいたりする昆虫もいる。用意のいい親だ。



オトシブミ成虫と巣、その中の卵と蛹
親虫は幼虫の餌となる木の葉を加工して巣をつくる。ふ化した幼虫はこの葉を食べ育て育つ。一枚の葉でも効率よく成長する、無駄のない倹約家だ。巣をゆりかごにたとえて「揺籃(ようらん)」ともいう。巣はそのまま樹上に残る場合と切り落とされる場合とがある。オトシブミの語源は「落し文」で、この巣を巻物の文(ふみ)に見立てたのだろう。(p147)



キボシトックリバチの巣作り
泥でとっくり型の巣を作り、中にガの幼虫などの獲物を蓄えて産卵する。



アメリカジガバチの巣内(断面)
泥で巣をつくり、ここに針で麻酔したクモを蓄えて幼虫の餌にする。麻酔した餌は長期保存が可能だ。(p159)



葉を運ぶハキリバチの一種
切りとった葉で巣を作り、中にえさとなる花粉などを蓄えて、そこに産卵する。(p157)



コブマルエンマコガネ
イヌなどの糞を巣穴の中に運び入れ、産卵する。幼虫はその糞を食べて成長する。(p131)